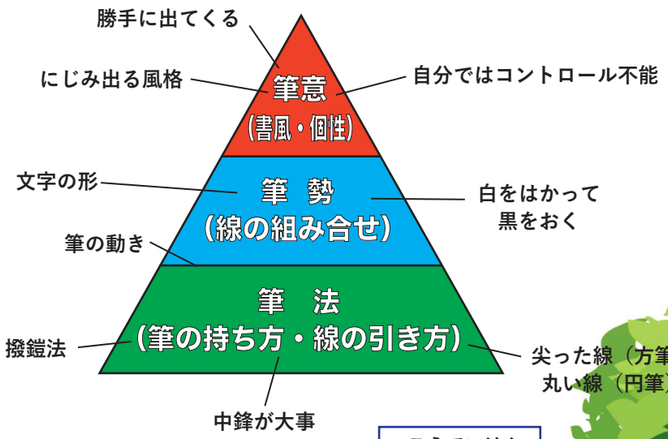
書の世界樹 ～書の正道・真に学ぶべき古典～

書の三大要素



宋人は「意（イ）」を尚（たっと）ぶ。
唐人は「法（ホウ）」を尚ぶ。
晋人は「韻（イン）」を尚ぶ。

書は用筆を上となし、結字（画の組合せ）もまた修養が必要である。
結字は時に移り変わるものだが、
用筆は千年変わらない。（元・趙孟頫）

白を計って黒をおく。（清・鄧石如）

九成宮醴泉銘（欧陽詢）
※初学者向け、字の組み立てを覚える

唐以後の書は観るに足らず（明治の三筆、中林梧竹の言葉）
基本的に唐以後の書を根本としてはやってはいけない。
明末清初も参考にするぐらいで自己の書の礎としてはいけない。

唐以後はなるほど大きく立派に書かれていて「章法（しょうほう）」という、いわゆる見せ方は参考にすべきモノがあるが、それは所詮は枝葉であることを忘れてはならない。

世界樹の幹から下にある三國六朝以前の書を文字通り根本とすべし。
せっかく書をやるならば、道を間違えてはいけない。
手本のクオリティーが一生を左右する。

は、二玄社・拡大法帖あり。
は、二玄社・中国法書選で扱いあり。

- 鄧石如（とうせきじょ）
  - ※唐以後でどうしても と言うなら
  - 張裕釗（ちょうゆうしょう）
  - 翁方綱（おうほうこう）
  - 鄭燮（ていしょう）
  - 包世臣（ほうせいしん）
  - 趙之謙（ちょうしけん）
  - 阮元（げんげん）
  - 董其昌（とうきしょう）
  - 張瑞圖（ちょうずいと）
  - 黄庭堅（こうていけん）
    - ※唐以後でどうしても と言うなら
  - 米芾（べいふつ）
  - 蔡襄（さいじょう）
  - 蘇軾（そしょく）
  - 王安石（おうあんせき）
  - 虞世南（ぐせいなん）
  - 柳公權（りゅうこうけん）
  - 欧陽詢（おうようじゅん）
- 清（しん）
- 明治（めいじ）
  - 会津八一（あいづやいち）
  - 中林梧竹（なかばやしごちく）
  - 巌谷一六（いわやいちろく）
  - 日下部鳴鶴（くさかべめいかく）
- 江戸（えど）
  - 良寛（りょうかん）
  - 一休宗純（いっきゅうそうじゅん）
  - 近衛信尹（このえのぶただ）
- 室町・安土桃山（むろまち・あづちももやま）
  - 本阿彌光悦（ほんあみこうえつ）
  - 松花堂昭乗（しょうかどうしょうじょう）
- 明（みん）
  - 傅山（ふざん）
  - 王鐸（おうたく）
  - 倪元路（げいげんろ）
  - 黄道周（こうどうしゅう）
- 鎌倉（かまくら）
- 平安（へいあん）
  - 小野道風（おのの とうふう（みちかぜ））
  - 藤原佐理（ふじわらの すけまさ（さり））
  - 藤原行成（ふじわらの ゆきなり（こうぜい））
  - 橘逸勢（たちばなの はやなり）
  - 嵯峨天皇（さがてんのう）
  - 空海（くうかい）
- 元（げん）
  - 趙孟頫（ちょうもうふ）
  - 張旭（ちょうきょく）
  - 顔眞卿（がんしんけい）
  - 褚遂良（ちょすいりょう）
  - 李陽冰（りょうひょう）
- 奈良（なら）
  - 最澄（さいちょう）
- 唐（とう）
  - 唐大宗（とうたいそう）
- 隋（ずい）
  - 書譜（孫過庭）（しょふ　そんかてい）
  - 真草千字文（智永）（しんそうせんじもん　ちえい）
    - ※書聖：王羲之へと繋がる大切な道
- 三國・六朝（さんごく　りくちょう）（東晋（とうしん））
  - 蘭亭序・集王聖教序・王羲之尺牘（らんていじょ　しゅうおうしょうぎょうじょ　おうぎしせきとく）
    - 十七帖（じゅうしちじょう）
  - 楽毅論・黄庭経（王羲之（書の神様））（がっきろん　こうていきょう　おうぎし）
  - 爨宝子碑・爨龍顔碑（さんぽうしひ・さんりょうがんひ）
  - 張猛龍碑（ちょうもうりょうひ）
  - 高貞碑（こうていひ）
  - 鄭文公碑（ていぶんこうひ）
- 漢（かん）
  - 曹全碑（そうぜんひ）
  - 西狭頌（さいきょうしょう）
  - 史晨前碑（ししんぜんひ）
  - 張遷碑（ちょうせんひ）
  - 礼器碑（れいきひ）
  - 石門頌（せきもんしょう）
  - 乙瑛碑（いつえいひ）
- 秦（しん）
  - 泰山・瑯邪台刻石（たいざん　ろうやだいこくせき）
  - 木簡（簡牘）（もっかん　かんとく）
- 春秋戦国（しゅんじゅうせんごく）
  - 石鼓文（せっこぶん）
- 夏・殷・周（か　いん　しゅう）
  - 金文（毛公鼎・散氏盤）（きんぶん　もうこうてい　さんしばん）
  - 甲骨文（こうこつぶん）

Copyright(C)　書家 田畑明彦 All Rights Reserved.